

行政視察報告書

1. 委員会または会派等 議会改革特別委員会
2. 視察期間 平成26年1月22日 から 平成26年1月23日までの1日間
3. 視察先 広島県呉市議会 兵庫県宝塚市議会
4. 視察項目（両市議会とも同じ調査項目） 議会報告会の取り組みについて 議員間の自由討議について
5. 参加者 〔委員（議員）〕 大野哲也 田中正繁 徳永春男 今村智津子 塩塚敏郎 平山光子 森田義孝 橋積和雄 吉田康孝 〔同行（事務局）〕 城戸智規 〔随行〕 大淵教至
6. 考察 別紙のとおり 以上のとおり、報告いたします。 平成26年 1 月30日 報告者 <u>大野 哲也</u> 大牟田市議会議長 殿

6. 考察

Ⅰ. 広島県呉市議会

(1) 議会報告会の取り組みについて

i. 概要

呉市議会では、議会基本条例が平成25年3月1日に施行されたが、議会報告会については平成22年度から行われている。これまでに、開催会場の増設や報告と意見交換の時間配分の変更、各常任委員会関連団体へ出向いての報告会・意見交換の開催など、改善点を明確にして実践されている。



報告会の企画・立案については政策研究会を設置して行われ、そこで資料も作成されている。なお、報告会の運営については、班編成を常任委員会単位とされており、各常任委員会が運営している。

報告会開催の周知については、市政だより・自治会の回覧版・議会のホームページ・チラシを市民センターに置くなどして行われている。

報告会当日に出された質問で答えられなかった内容については、後日作成され市民が閲覧できる議会報告会報告書の中で回答されている。また、参加者へのアンケートの中で、氏名や連絡先の記載のある質問には、後日郵送で回答されている。

今後の課題としては、議会での議論の過程をもっと報告していくことや、採決結果を明らかにしていくような工夫が必要である。また、参加者の構成が男性や高齢者に偏っていることから、開催時間帯などを含め、子育て世代など若年層や女性の参加と意見をどうくみ上げていくかを検討しているとのことだった。

ii. 質疑

Q1. 報告会で出された意見への対応はどう対処されているのか。

A1. 報告会ごとに報告書を作成し、それを市長と各部長に提出している。市民から出された空き家対策に関する意見から、空き家条例ができたのは成果だと思う。

Q2. 各常任委員会関連の団体に出向いての報告・意見交換とあるが、どのような団体が対象になっているのか、また団体は毎年変更されるのか。

A2. 消防団や社会福祉協議会、PTA連合会、観光振興団体などで、今後はそれ以外の団体にも出向こうと考えている。

Q 3. 出された質問・要望にどう応えていくかが大事になると思うが、空き家条例ができるまでの経過を聞きたい。

A 3. 政策研究会でどのような条例をつくるかの議論がされていたという前提があるが、空き家対策を求める市民意見が貴重なきっかけになった。

Q 4. 報告会での答弁で議員個人の見解を述べる時があるとされているが、議会ではそのように整理されるまでに、どのような議論が行われたのか。

A 4. 議員間で大分議論になった。意見・質問に対しての多様な議員個人の答弁には、いずれにしても限界があり難しい。市民との意見交換の場として考えている。

Q 5. 市民意見については、議員が議会での質問に取り上げているのか。

A 5. 議員によっては議会で取り上げている。

Q 6. 報告会で使用する資料の作成の役割分担はどうしているのか。

A 7. 報告するテーマは議員が議論して決める。資料は事務局が作成し、議員が修正する方法をとっている。

iii. 委員の感想

○ 大牟田市議会との相違点として、①班編成が常任委員会単位である、②報告内容を5項目準備し、開催場所によって3項目を選定して報告、③常任委員会の関連する団体とも報告会を実施している。また本年度は事前にまちづくり協議会から地域課題を出してもらい、それについての意見交換を行うことも準備されている。本市でも若年層などの参加については検討すべき課題であり、参考となる取り組みだと考える。

○ 議会報告会での市民意見から、空き家等の適正管理に関する条例ができたということは参考にしたい。

○ 呉市議会は常任委員会ごとの班編成を行い、政策研究会を中心に運営方針を決定し、取り組まれていることについては、大牟田市議会でも、呉市議会の運営方法を参考にした、より良い議会報告会の推進を図る必要があると感じた。

○ 呉市議会の取り組みを聞き、基本的には大牟田市議会の議会改革の取り組みや方向性は間違っていないと確信が得られた。参加者の構成は大牟田市議会と同様で高齢者や地域の世話役が多く、どこも同じ状況であると感じた。

○ 質問等については、会場で答えられない場合は持ち帰り、後日市民が閲覧できる報告書に記載して答えられたりと、適切な対応が取られており、大変参考になった。

○ 呉市議会では、26年度の実施に向けてまちづくり協議会から事前に地域課題を提出してもらい、議会報告会の中で意見交換が行なわれることが予定されており、充実した運営に取り組まれている。大牟田市議会でも市民の多様な意見や要望などをさらに市政に反映させるため、議会改革のさらなる強化を図っていききたい。

iv. 考察

議会報告会の班編成を常任委員会単位として、4つの常任委員会が4年間で16地域を回る。さらに各常任委員会と関連のある団体との報告会を実施するなど、毎年度の報告会から改善点を明らかにして実践している呉市議会の取り組みには学ぶべき点が多い。26年度については、まちづくり協議会などから事前に地域課題を聞き、意見交換を予定されていることなどは、大牟田市議会の今後の報告会の取り組みの参考にすべきだと考える。

(2) 議員間の自由討議について

i. 概要

平成16年9月から、常任委員会の活動としては、執行部側の行政報告に加えて、議会側がテーマを決めて調査・研究する所管事務調査を行うこととされ、各常任委員会では、テーマについて行政当局より取り組み状況の説明を受け、現状



の把握や解決策について委員間討議を行っている。また、そのテーマに基づき行政視察を行い、常任委員会で意見交換、協議を行った後に、それまでの所管事務調査活動からの調査報告書をまとめて議長に提出している。

政策提案まで行いたいのが、現在のところ、まだそこまでは達していない。

ii. 質疑

Q1. 行政視察には、行政当局も同行しているのか。

A1. 行政当局も同行している。視察を終えた後、当局同行者も含めて視察の感想を述べている。同行することにより、双方の理解が深まる利点がある。

Q2. 条例の条文に自由討議、合意形成とあるが、現状はどうか。

A2. やってほしいという目標である、めざす方向性を条文化している。

iii. 委員の感想

議員間の討議は、各常任委員会で委員自身が2年をスパンとする所管事務調査のテーマを決め、議論をする中で行われており、そのことが、その後の活動の活力になるという点は参考になると感じた。

議員間討議には様々な場面での導入の仕方があると思うが、呉市議会の取り組みも参考としながら大牟田市議会での取り組みを検討すべきと感じた。

iv. 考察

呉市議会での委員間討議は、各常任委員会での所管事務調査の議論で行われている。各常任委員会でテーマを設定し、委員間討議で問題点を明らかにしていく過程や解決策を探るための具体的な進め方、スケジュールが形式化されている点は参考となった。

大牟田市議会でも、委員間討議は試行錯誤の現状で、そのあり方の議論を深め、進め方の定式化を図ることが必要であると感じた。

II. 兵庫県宝塚市議会

(1) 議会報告会の取り組みについて

i. 概要

- 議会基本条例制定（平成23年4月1日施行）に伴い、議会報告会を平成23年より実施。定例議会毎に年4回実施されている。平成23年度は各回2会場、平成24年度からは3会場で実施。近年は、小さな会場でも行われている。
- 報告内容は、議会で審議された議案の内容や結果の報告が中心。報告会の資料として、常任委員会に付託され議案の審査の経過と結果を記載した委員会報告書が作成される。
- 市民からは報告内容についてのみの発言が認められており、出された意見への対応は、持ち帰らずその場で答えることを原則にされている。
- 報告会開催の周知方法は、市議会報や議会のホームページ、市広報紙、チラシ配布（市議会窓口、議会傍聴席、市内公共施設等の他、議員による街頭でのチラシ配布等も行われている）、ポスターの掲示、エフエム宝塚での放送など。
- 市民の参加は、多いとは言えない状況。議会からの報告だけでは不十分ではないかという議論も行い、報告会の回数を年2回に減らして、別に意見交換会を開催することも検討されている。



ii. 質疑

- Q1. 報告会で使う資料は、議会事務局で作成しているのか。
- A1. 事務局で作成している。
- Q2. 年4回の開催回数が多いという意見はないか。

A 2. 報告会の開催回数は、市民の意見によって4回となった。会議も増え、大変多忙となり他の議員活動に支障も出ている。報告会は2回ぐらいにしてはという意見も出ており検討している。

Q 3. 分厚い委員会報告書をどのように説明しているのか。時間は長くないか。

A 3. 担当する常任委員会の委員が資料の中から抜粋して説明、だんだん簡潔にしている。

Q 4. 議会活動の報告が中心だが、市民から様々な意見等を聞いてほしいという声はないか。

A 4. 議会活動の報告をする議会報告会と市民意見を聴く意見交換会は別にと考えているが、それでも報告会で意見等を言う人もいる。

iii. 委員の感想

○ 宝塚市議会は、年に4回議会報告会を行われ充実した運営をされている。定例議会毎の年4回の報告会は大変な労力だが、議会活動の報告の場と市民意見を聴く場は別のもので区別されており、やり方の一つとして参考になった。

○ 議会報告会への市民参加については、本市と同様に苦勞されている。議案の論点を住民に分かりやすく説明したり、地域課題についての意見交換を行ったりするなどして、住民の関心を高めることが必要だと思った。

○ 議会報告会の開催周知の取り組みの一つとして、議員が駅前で宣伝しながらチラシの街頭配布をされており、参考になる取り組みだと思った。

○ 宝塚市議会は、年4回の各定例会後に議会報告会が行われており、基本的には市民意見を聞く場ではなく、本会議での審議等の報告が行われている。市民の質問はその内容についてだけに限定されているとのことだったが、それでは市民の関心は少なくなるのではないかと思った。大牟田市議会も他市の取り組みを参考としながら、さらなる改善をしなければと感じた。

○ 年4回の議会改報告会の開催については驚きであった。また、報告会と意見交換会を区別して行うなど、我々の議会運営サイクルでは難しいと思われた。報告会の資料は、定例会で各常任委員会に付託された議案の審査に関する内容だったが、どのような資料が市民にとって適切なのかについて検討する必要があると思われた。

○ 議会改革は議員の質を高め、議会の透明性及び信頼性を確保し、市民に開かれた議会を目指すことでもあり、市民にとっても議会改革や議会報告会の取り組みは重要だと思う。

iv. 考察

議会報告会の周知については、宝塚市議会では多様な方法で行われており、本市でも参考にできるところが多々あった。報告会の開催回数を減らして、市民との意見交換会を行う方向で検討されていたが、本市でも報告だけよりも議会との

意見交換や意見の反映を望まれる市民が多い。今後も地域住民の意向を把握して行っていくことが必要だと思われる。

(2) 議員間の自由討議について

i. 概要

議員間の自由討議については、基本条例第10条に「本会議及び委員会において、議案等を審議又は審査し、結論を出すに当たっては、議員又は委員間相互の自由討議を尽くして合意形成に努める」と定められている。

常任委員会の議案審査の中で自由討議を行い、議員同士が十分意見交換し、議論を深めて合意形成を図ることが目指されている。

そのため議会日程を変え、本会議での一般質問の前に常任委員会での議案審査を行うこととされ、まずは議案の論点を整理して、それについて常任委員会で質疑を行い、引き続き自由討議をして採決が行われている。



ii. 質疑

Q 1. 重要な課題等には政策研究会を設置するとあるが、設置されたことはあるのか。

A 1. まだ、設置したことはない。

Q 2. 常任委員会に自由討議を導入した結果合意形成が図られたり、政策提案に結びついたりした事例はあるのか。

A 2. なかなか難しい。議論がガラス張りになったという成果はある。

Q 3. 常任委員会の自由討議は、広く市民に伝えられているのか。

A 3. 常任委員会の中継をすべきという意見もあるが、まだ行っていない。

Q 4. 議案についての質疑は、本会議では行わないということになるのか。

A 4. 常任委員会で質疑を行うが、本会議では基本的に質疑は行わない。

Q 5. 常任委員協議会のメンバーや運営はどのようにしているのか。

A 5. 常任委員協議会のメンバーは常任委員会のメンバーと同じで、3つの協議会がある。常任委員会で議案の説明を受けた後に常任委員協議会は開かれるが、そこでは議案熟読中に会派で協議を行い課題抽出したものを持ち寄り、論点整理を行う。

Q 6. 常任委員会での自由討議のやり方・様子や本会議の質疑・質問との関係について。

A 6. 常任委員会での委員間討議のときは、当局は退席せず聞いているのみ。討議時間はかなりかかっている。質疑は常任委員会で、質問は本会議でと分けている。常任委員会での議論に多くの時間が必要であるため、本会議の質問準備の時間が少なくなって内容がやや減っている感もある。

iii. 委員の感想

- 常任委員会の議案審査に自由討議を導入され、議員同士が意見を交換し、議論を深めることで、合意形成に努められていた。議案の論点を整理するプロセスを導入したため、常任委員会の開催日数は最低3回と増えたが、審査が深まり、意思決定のプロセスが「見える」ようになった効果は大きいとのことだった。今後の大牟田市議会の議員間の自由討議については、宝塚市議会の取り組みも参考にして、より良い方法を検討する必要があると感じた。
- 議員間の自由討議は、付託議案審査の常任委員会でされており、会期中の常任委員会の開催回数を増やして充実されるなど、合意形成に向けての取り組みが参考になった。
- 常任委員会とは別に常任委員協議会を設置し、本会議に提出されている議案の論点を各会派の意見も踏まえて整理し、その後の常任委員会で自由討議を導入して議案を審査する取り組みが行われており、常任委員会の開催日数を増やしている。大牟田市議会でも委員間討議を取り入れてはいるが、議案によって合意形成がどこまで必要かなどいろいろな検討課題があり、宝塚市議会の取り組み方も参考になると思う。

iv. 考察

宝塚市議会では、議案の論点を整理するために常任委員協議会が設置され、その論点を各常任委員会の議案審査の中で質疑して自由討議を行われており、議員同士が十分意見交換し議論を深めて合意形成を図ることが目指されていた。

合意形成までいくのはなかなか難しいということだったが、議員同士が十分意見交換し議論を深めることは大切なことであり、どのように自由討議を位置づけていくのか、大牟田市議会の実態に合ったよりよい方法を検討していかなければならないと思う。